

# PowerRW+ から PowerRDBconnector への 移行手引書

---

初版：2008年 8月

富士通株式会社

# はじめに

本書は、Windows (R) の「PowerRW+ for NetCOBOL」から「PowerRDBconnector for NetCOBOL」へ移行するための手引書です。

本書は、以下の製品を元に記載した文章です。

- PowerRW+ for NetCOBOL V2.1
- PowerRW+ Personal for NetCOBOL V2.1
- PowerRDBconnector クライアントパッケージ/サーバパッケージ for NetCOBOL V3.0
- NetCOBOL Professional Edition 開発パッケージ for Windows V9.0L10

本書は、各システムのOSを以下のように記述しています。

- FMV, PRIMERGYのOS : Windows

「NetCOBOL」のマニュアルとして、以下のマニュアルがあります。

必要な場合には併せてお読みください。

- COBOL 文法書
- NetCOBOL使用手引書

「PowerRDBconnector for NetCOBOL」のマニュアルとして、以下のマニュアルがあります。

必要な場合には併せてお読みください。

- PowerRDBconnector for NetCOBOL説明書

## [商標について]

- Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- その他の会社名または製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

本資料には、“外国為替および外国貿易管理法”に基づく特定技術が含まれています。

したがって、本資料またはその一部を輸出する場合には、同法に基づく許可が必要とされています。

**【改版履歴】**

版数	場所	内容
初版 2008年8月	全体	新規作成

# — 目次 —

第1章 移行の概要	- 1 -
1.1 移行概要	- 2 -
1.2 移行手順	- 4 -
① ファイル定義体の移出	- 5 -
② SQLスクリプトの作成	- 5 -
③ データファイルの移出	- 5 -
④ 資産移動	- 5 -
⑤ 表の作成	- 6 -
⑥ CSV変換	- 6 -
⑦ CSVでの移出	- 6 -
⑧ COBOLアプリケーションの変更	- 7 -

# 第1章 移行の概要

この章では、PowerRW+からPowerRDBconnectorへの移行手順について説明します。

## 1.1 移行概要

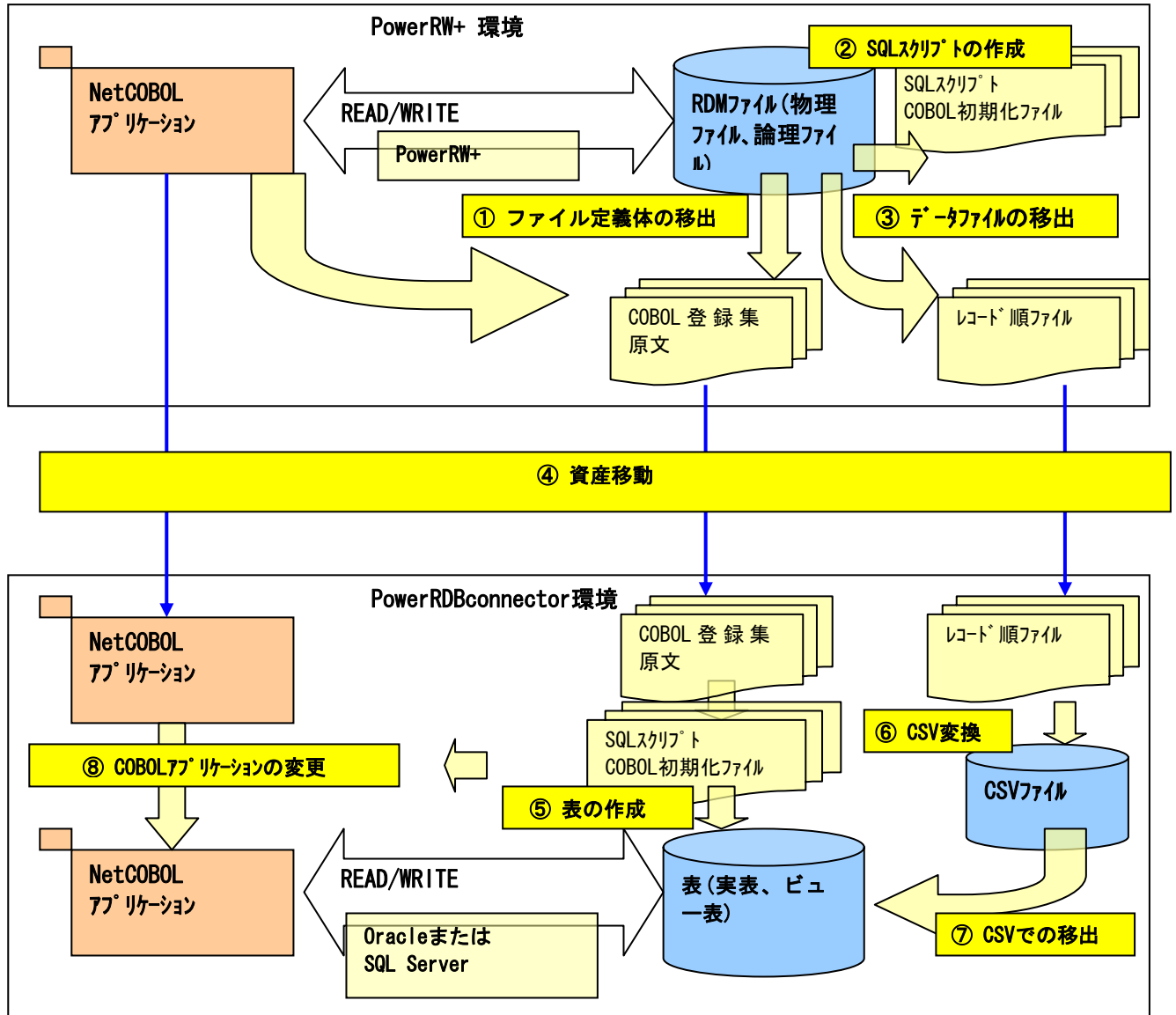
PowerRW+からPowerRDBconnectorへの移行は、PowerRW+の資源(ファイル定義体、データファイル)をデータベース(OracleまたはSQL Server)の資源にする作業になります。



## 1.2 移行手順

移行は、以下の図の手順となります。

【資産移行図】





## ① ファイル定義体の移転

ファイル定義体は、ファイルを定義したものでCOBOL登録集原文のCOPYソースに相当するものです。PowerRDBconnector環境では、COBOL登録集原文のCOPYソースを使用しますので、変換して移転します。ファイル定義体をCOBOL登録集原文に変換するには、PowerRW+のFILEユーティリティの定義体変換機能(ffdcnv)を使用します。

## ② SQLスクリプトの作成

ファイル定義体を元に実表、ビュー表を作成します。「PowerRDBconnector 環境作成コマンド」を使用して、SQLスクリプトを生成します。

- ・ 「PowerRDBconnector 環境作成コマンド」については、「PowerRDBconnector 説明書」を参照します。

## ③ データファイルの移転

データが格納されている物理ファイルを移行しやすい形式のレコード順ファイルに移転します。PowerRW+のcnvdfコマンドを使用して、レコード順ファイルに変換します。

cnvdfコマンドの指定形式

cnvdf	[-C]	物理ファイル名	レコード順ファイル名
-------	------	---------	------------

パラメタの説明：

- C：レコード順ファイルに格納されたレコード件数が出力されます。

【注意事項】

- ・レコード順ファイルの拡張子は、「.dat」をお勧めします。

## ④ 資産移動

COBOLアプリケーション資産、COBOL登録集原文、SQLスクリプト、COBOL初期化ファイル、レコード順ファイルをPowerRDBconnector環境にOSのコピーコマンドなどで移動します。

## ⑤ 表の作成

SQLスクリプトから表(実表、ビュー表)を作成します。

- SQLスクリプトについては、「PowerRDBconnector 説明書」を参照します。

## ⑥ CSV変換

COBOL登録集原文とレコード順ファイルを元に「NetCOBOL for Windows」の「SIMPLIA TF-MDPORT」を使用して、レコード順ファイルをCSVファイルに変換します。

- 使用方法は、『SIMPLIA TF-MDPORT オンラインマニュアル』を参照してください。
- データの英数字項目、または、日本語項目に英数字や日本語でないデータがある場合、CSVファイルに変換できません。

## ⑦ CSVでの移出

CSVファイルを各DBMSのユーティリティを使用して移入します。

- 使用方法は、各DBMSのユーティリティのマニュアルを参照してください。

## ⑧ COBOLアプリケーションの変更

COBOLアプリケーションは、「PowerRDBconnector 説明書」を参照し、PowerRDBconnector環境で動作できるように対応します。

- ・ COBOL初期化ファイルをPowerRDBconnector用に変更します。
- ・ トランザクション命令(開始、終了、取消し)をPowerRDBconnector用に変更します。